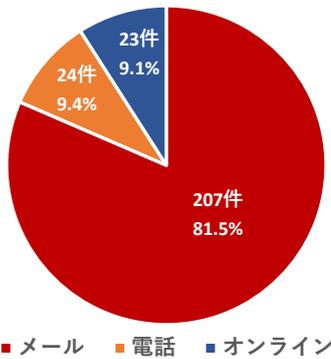




進路・履修相談および学習相談の状況



進路・履修相談件数の内訳 (2020年8月～10月)

進路・履修相談は1学期に引き続き、web受付フォームからのメール形式の相談を実施してきましたが、8月からは、それに加えてスタッフによるオンライン対面形式の対応を開始しました。これにより、例えば、希望する進路を実現するための履修計画を立てるといった、やり取りが多くメールでは時間がかかってしまう相談も、迅速に回答することができます。10月までにオンライン対面相談は23件となっており、メール形式の207件よりは少数ですが、支援体制の充実や相談者の要望に応えるためにも、今後もオンライン対面形式での相談は継続していく方針です。

学習相談も、1学期に引き続き、大学院生チューターによるオンライン対面形式での相談を実施

していましたが、10/19(月)以降、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら一部の学習相談を対面で実施していましたが、10月下旬以降の感染拡大による影響を考慮し、11/24(火)より対面対応の体制を見直すことになりました。今後も感染防止に十分留意しながら支援体制の充実を図っていきます。(折笠善丈)

学生の皆様へ

今年10月をもって部門長を退任された細川先生から学生の皆さんへ向けたメッセージです。

これからどうなる？

ラーニングサポート室長 (2015.4～2020.10)
高等教育推進機構 教授 細川 敏幸



5年余にわたり、室長を務めてまいりました細川です。定年も間近になり、この職務を若い先生にお願いすることになりました。これまで、毎年およそ3千名の方の学習支援、1千名近い進路相談を維持できたのは、歴代の室員とTAの皆さんのおかげです。ここに感謝するとともに、その活動を誇りたいと思います。というのは、全国でもこれほどの数の学生さんにサービスしている組織はあまりないからです。

コロナをとりまく状況もあり、学生の皆さんは本学での学習や将来の進路に、いつもの年よりも不安をお持ちかもしれません。しかし、人生はいつでもわからないものです。自分がどんな能力を持っているのか。どんな職業が向いているのか。本当のところは、やってみないとわかりません。日本人の平均

寿命は女性87歳、男性81歳で、コロナでもこの数値は変わらないでしょう。勇気を持って毎日勉強しましょう。自分がやりたいことがわかってくれば、世界は開けていくものです。みなさんの将来には大海が開かれ、舵取り次第でどこへでも行くことができます。

私の経験では、置かれた環境で、懸命に努力することが、結局は将来につながります。そして、努力は孤独に行われるとは限りません。できる限り世の支援を利用することも、大切です。ラーニング・サポートを利用するのも一つの手です。昔、どなたかに「3の法則」を教わりました。あることを理解するためには、少なくとも3種類あるという法則です。先生の言うことがわかかなければ、別の教科書を読んだり、友達に聞いてみたりしてみてください。ひとつ

の勉強方法だけで理解できないとあきらめてはいけません。他の2種類の勉強方法を試してみてください。どれかでわかるはず。教科書も3冊以上集めると、どれかでわかることと思います。3番目を試すまで、あきらめてはいけません。先人が理解できたことをあなたが理解できないわけがないのです。

世界がいつもの様子に戻り、みなさんが自信を持って将来を切り開いていくことを祈念いたします。

あの頃みんな一年生

今年11月から部門長に着任した池田先生の大学生の頃の思い出と学生の皆さんへ向けたメッセージです。

幸せって何だろう？

ラーニングサポート室長
高等教育推進機構 教授 池田 文人



私は、自由な校風と京都という街に惹かれ、一年間宅浪の末、1990年4月に京都大学理学部に入学しました。湯川秀樹や朝永振一郎に憧れて理論物理学を学びたいと思う一方、当時、京都大学教育学部の学部長をしていた、日本におけるユング研究の第一人者であった河合隼雄先生の著書に感銘を受け、心理学にも興味がありました。またヘルマン・ヘッセの「車輪の下」や「シッダールタ」、アンドレ・ジイドの「狭き門」などに感動し、西洋文学にも関心がありました。さらには浪人時代にモーツァルトに傾倒していたので、音楽学も面白そうだなと思ってました。文系学部から理系学部へ転部するよりもその逆の方が楽だという噂を聞いていたので、まずは理学部に入学することにしました。

当時の理学部長は行動動物学で世界的に有名だった日高敏隆先生でした。日高先生は私たちの入学式の時に、以下のような話をされました。イギリスで蒸気機関車が走り始めた時、庶民はあの黒い物体の中には馬が何十頭も入っていると思っていた。人は知らない自分の知っていることで物事を歪曲してしまう危険性がある。だから多くのことを学びなさいと諭しました。その上で、いまだ誰もこの世界の真理に到達した人はいないのだから、教員も学生も真理の前では平等だとおっしゃいました。その言葉を間に受けて、生意気だった私は、宇宙物理学で有名だった佐藤文隆先生の授業に出ては、板書の間違いを指摘して悦に入っていたものでした。若気の至りです。

当時、数学は得意科目であり、自信もありました。しかし微分積分の授業を受けてその自信は砕け散りました。

た。まずは微分を定義するということで、 ε - δ 論法なるものが出てきて、チンプンカンプンでした。工学部の友人に聞くと、工学部では高校の延長のような感じで微分方程式を解いているとのことでした。理学部の数学は、高校までの数学ではなく、哲学あるいは論理学に近いものでした。数学への興味を失い、あっさり理論物理も諦めてしまいました。その後は、音楽とバドミントンと神社仏閣巡りに没頭し、授業はほとんど出ませんでした。当時の理学部は、4年間で卒業に必要な単位を揃えれば卒業できたので、留年することはありませんでした。

私の父は獣医であり、家で飼っていた多くの動物たちの世話をさせられて辟易していたせいで、生物にはまったく興味がありませんでした。しかし単位を揃えるために、数学を使わない生化学の授業を3回生の時に受け、DNAの電子顕微鏡写真を見て心を動かされました。このような美しい幾何学的な物質が私たち生物の根源なのかと驚嘆したのです。そして4回生の研究室配属では生化学教室に入りました。しかしDNAを採取するためにくる日もくる日も大腸菌のお世話。すっかり嫌気がさし、新しい進路を模索しました。

そんな折、当時創立2年目だった奈良先端科学技術大学院大学の学生募集が目にとまりました。何だか新しいことができそうだと思い、情報科学研究科へ進み、人工知能に関係する研究をしました。その後、現NTTデータに就職し、今でこそ普及したテレワークの実証実験や、システムエンジニアからの質問に回答するサポート業務の改善などに取り組みました。そして質問の重要

性に気づき、解答を評価するのではなく受験者の質問を評価する入試に変革しようと思い、20年前に北大へ転職しました。質問の評価と創造が私の研究テーマです。

幸せとは、好きなことを見つけ、それを続けられることだと思います。今思うと、学生時代は好きなことを見つけるために右往左往していました。しかし好きなことを見つけたとしても、それを続けることの方が大変です。好きなことを続けるためには、まず生きていく必要があります。好きなこととそれを続けることを繋ぐものは、「使命」だと思います。社会に対して私ができるかということです。この使命が社会に受け入れられた時に、好きなことを続けることが可能になります。

使命を見つけるためには、自分を知るとともに、社会を知る必要があります。ですのでそう簡単には見つかりません。しかし大学はその両方を知ることができる場です。ただ、大学はあまりに広く複雑なので、すぐに道に迷います。私たちは、みなさん一人一人がそれぞれの使命を見つけるための道案内をできればと思っています。

そして、みなさんがそれぞれの使命を果たすまでの道のりは遠く険しいものです。それを歩き切るためには「自信」が必要です。自信とは、他者のために活かせる自分の価値を持っていることだと思います。北海道大学という広大な知の大海の中で、本当の自分の価値に気づき、磨いていきましょう！

編集後記

全国の新型コロナウイルス感染者数の増加により、北海道大学でも行動指針レベルが引き上げられました。依然、見通しは立ちませんが、学生の皆さんが安心して学問に打ち込める大学生活を送れるよう願っています。(折笠 善丈)

ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 E-mail: lso@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL: <https://lso.high.hokudai.ac.jp/>
電話: 011-706-7526 Twitter: https://twitter.com/lso_hokudai

